

令和3年度

サービス管理責任者(児童発達支援管理責任者)研修

基礎研修 A日程

サービス提供プロセスの管理に関する演習

令和3年10月13日(水)

障がい者生活支援センターほくと

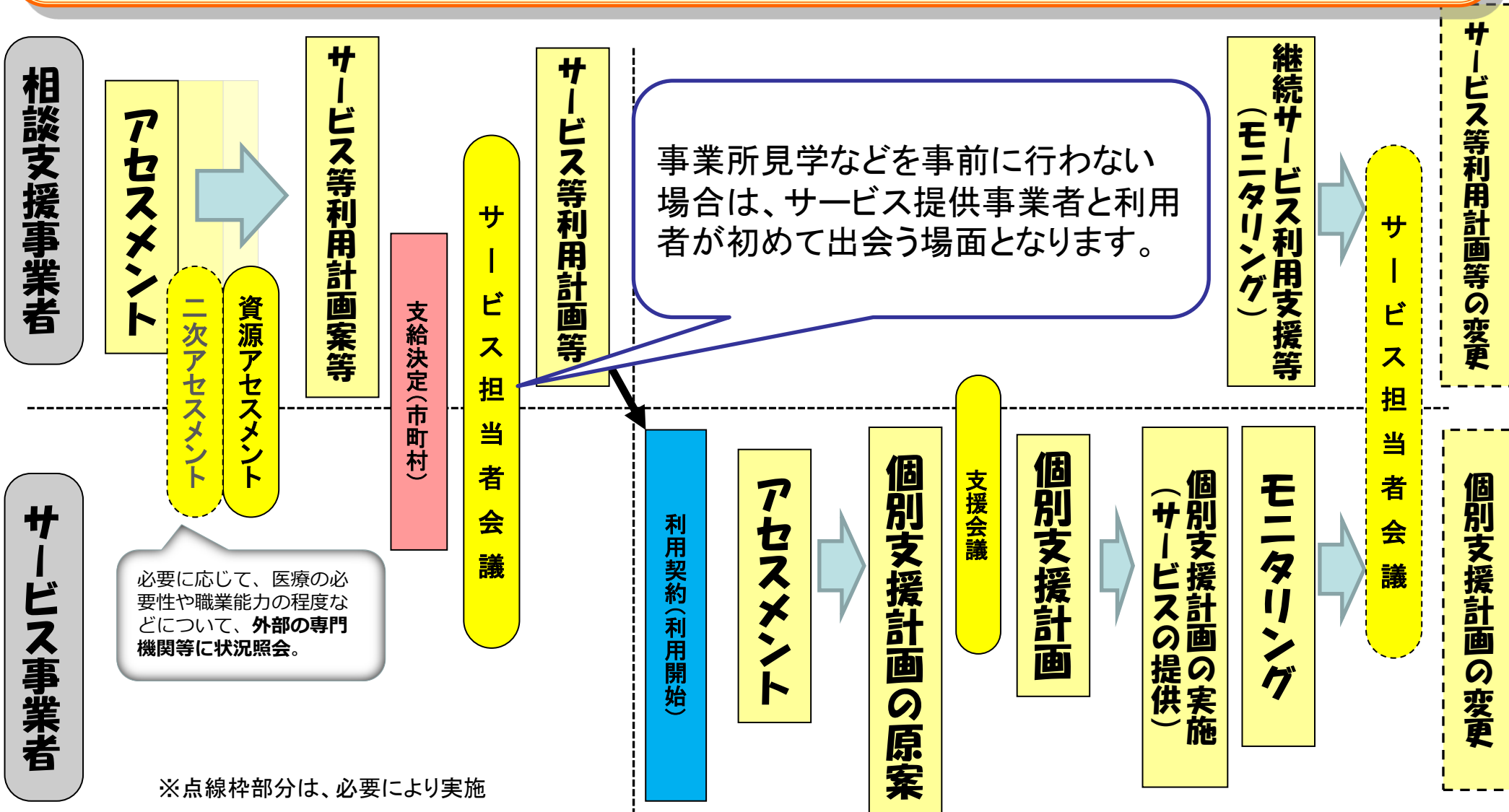
相談支援専門員 泉 公平

演習の内容と目的

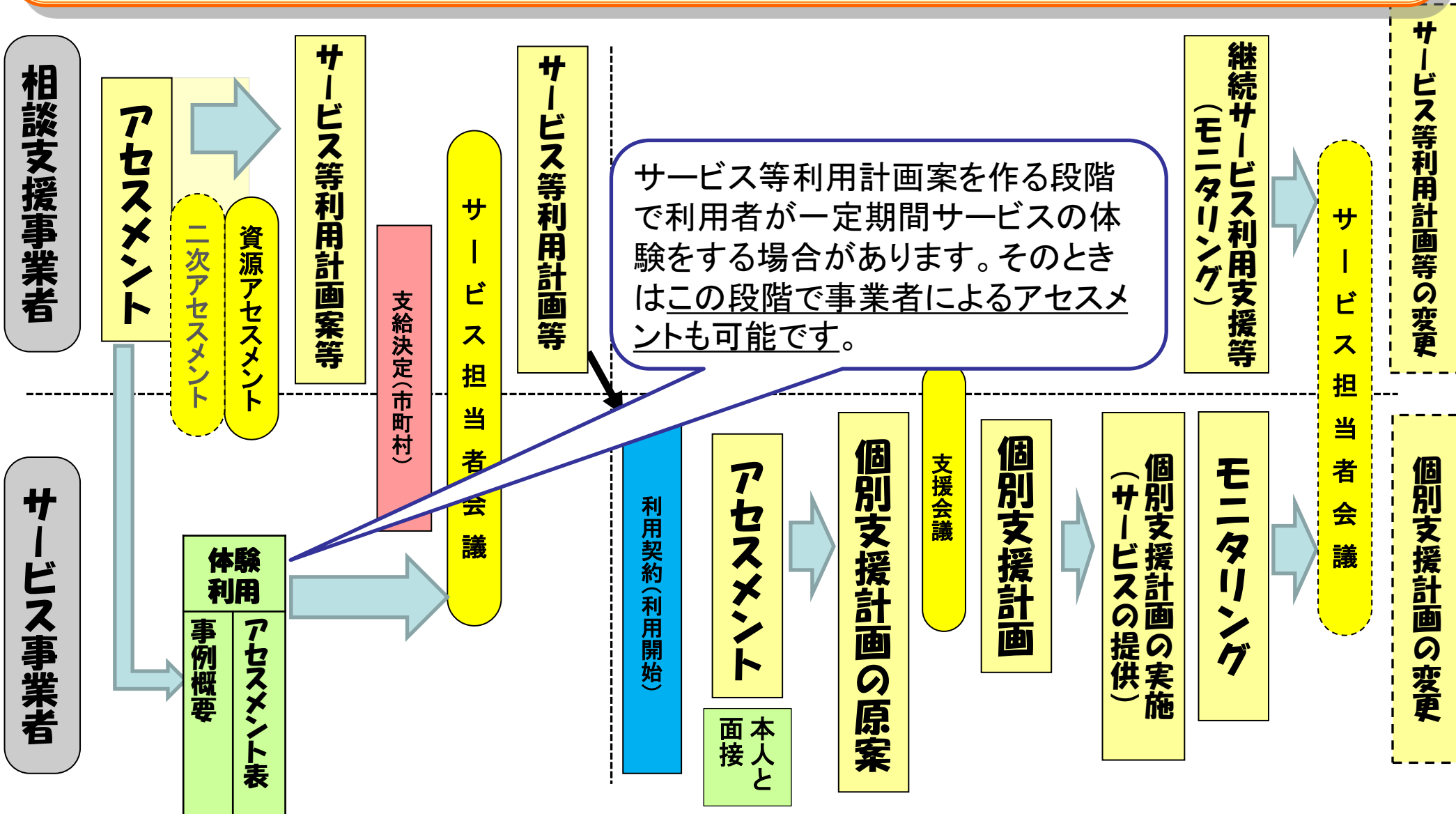
サービス提供プロセスの管理に関する演習(7.5時間)

1. 個別支援計画の作成(演習)	モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。	270分
2. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)および記録方法(演習)	モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。	180分

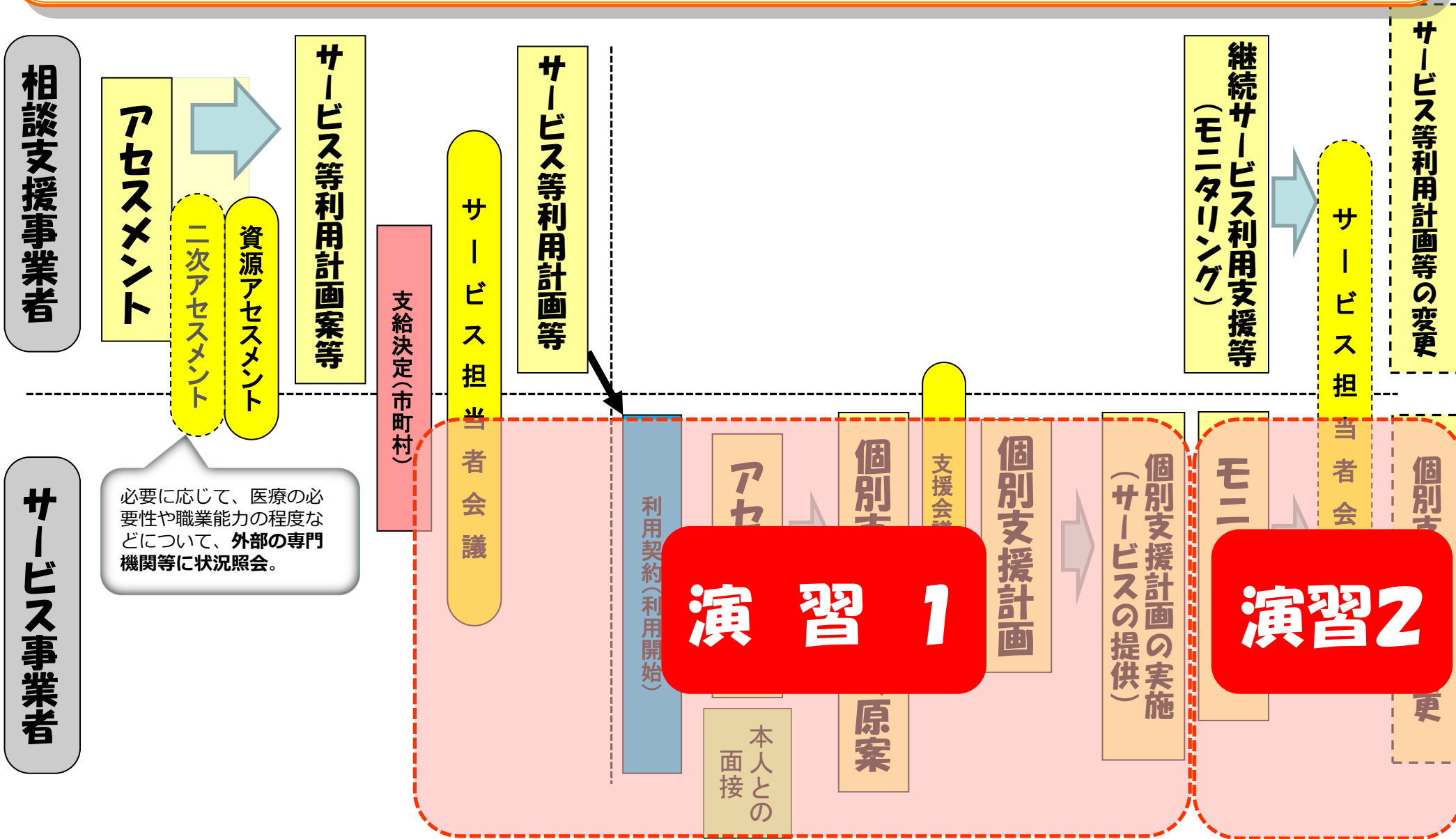
指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



各グループの設定

- 演習1及び2では、共同生活援助と就労継続支援B型のいずれかの事業者のサービス管理責任者の役割を体験します。
- A・C・E・G・I・Kのグループは
→「共同生活援助」事業者
- B・D・F・H・J・Lのグループは
→「就労継続支援B型」事業者

【演習1】 個別支援計画の作成

タイムスケジュール 令和3年10月13日(水)午前

演習1 「個別支援計画の作成①」

160分

9:45

10:15

10:45

12:05

12:25

ガイダンス 事例の説明 (30分)	模擬 サービス 担当者会議 (30分)	【1】ニーズ の整理 (20分) ※休憩はグループ内で適宜	【2】個別支援計画 の作成 (60分)	ロールプレイの説明 個別支援会議の 配役決め (20分)
-----------------------------	----------------------------------	--	-------------------------------	---

○配役について

・ファシリテーター

- ① 共同生活援助事業所のサービス管理責任者役
- ② 就労継続支援B型事業所のサービス管理責任者役
- ③ 本人役
- ④ 父親役
- ⑤ 相談支援専門員役

※サービス等利用計画を基に
模擬サービス担当者会議を
行う。

○司会、記録を決める。

- 事前に作成した個人のニーズの整理表を基に、グループでニーズを整理する。(グループで具体的到達目標を付箋、Jamboardに書き込む)
- グループで個別支援計画を作成する。
 - ・到達目標、長期目標、短期目標の検討
 - ・具体的到達目標、本人の役割、支援内容、支援機関、担当者、優先順位の検討
 - ・本人に分かりやすい言葉で記入する。

- ロールプレイについて説明する。
- 個別支援会議の配役を決める。

演習事例の概要

【この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です】

- 水道橋久さんは、A市で2人兄弟の長男として出生。発語や歩行し始めるのが少し遅かった。小学校の1、2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立って教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあり、小学校3年生からは情緒支援の特別学級に移った。小学校6年生の時に軽度の知的障害と判定を受けた。
- 中学は特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し顧問に根気よく教えてもらい部活動では楽しく過ごしていた。昆虫や木工にも興味をもっていた。久さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。その後、久さんは母親と1年に1～2回は会っている。
- 久さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司が、わかるまで丁寧に教えてくれ、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、上司が変わってから「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などを訴え、退職して自宅でのひきこもり状態の生活になった。
- 久さんが退職して半年後、父親が通勤途中の交通事故により大けがをして仕事ができなくなり生活保護となった。父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があった。久さんも「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」、「一人暮らしに向けた準備をしたい」、「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。
- 久さんは、相談支援事業所にサービス等利用計画案の作成を依頼し、相談支援事業所がアセスメントを実施、計画案を作成し久さんに提示し、了承を得たので計画案をA市福祉課に提出しました。それを受けてA市福祉課は共同生活援助と就労継続支援B型の支給決定を行いました。相談支援事業所の相談支援専門員は、「サービス担当者会議」を行います。

就労継続支援B型事業所「スマイル」の概要

事業所所在地の環境	<p>人口は約10万人、人口の約30%は65歳以上の高齢者であり、人口の5%にあたる約5千人が障害者手帳を保持している。</p> <p>県庁までは自動車で1時間、都市圏までは電車で1時間程度かかる。</p> <p>産業は、新都市開発による工場誘致により第二次産業が増加傾向にある。</p> <p>公共交通機関は地元の鉄道、バスがあるが、自動車が移動手段の中心である。</p>	
地域の社会資源の状況	<p>障害福祉サービス事業は、市内の社会福祉法人やNPO法人により、就労継続支援A型・B型、生活介護、生活訓練、就労移行支援の各事業が整備されている。</p> <p>相談窓口として、障がい者相談支援センター1ヶ所、特定相談事業所8ヶ所があり、障害者就業・生活支援センターは隣市にある。</p>	
地域の地場産業	<p>自動車産業が盛んな地域であり、部品の製造をはじめとした下請け企業が多い。以前は、家内工業の工場がたくさんあり、職親制度等も利用して障害のある人の雇用がされていたが、最近ほとんどが閉鎖・倒産している会社が増えている。</p>	
事業所の概況	<p>多機能型事業所</p> <p>就労移行支援事業 定員12名</p> <p>就労継続支援B型事業 定員20名</p> <p>現在の利用者は、身体・知的・精神など多様な障害種別の人が利用している。</p> <p>久さんが利用を予定しているグループホームからはバスで10分（徒歩ならば45分かかる）の距離である。</p>	
職員構成	<p>管理者1名（60代女性） サービス管理責任者1名（本田一郎：40代男性）</p> <p>職業指導員3名（40代女性、60代男性、20代女性）</p> <p>生活支援員2名（30代女性、30代男性） 就労支援員1名（30代女性）</p>	
日課	<p>*平日 9:30～16:00 *土日祝日は休所</p>	
主な作業内容	作 業 内 容	工賃の状況
	カフェ（接客、皿洗い、調理補助等）	時間 200円～400円
	組み立て作業	時間 200円～400円
	施設外就労活動（近所の運送会社での倉庫内作業・袋詰め作業）	時間 400円～580円

グループホームピアハウスの概要

- 共同生活援助事業所(介護サービス包括型)
 - * 夜間は連絡体制のみ
- 入居定員4名 現在 男性4名利用中
- 建物 戸建住宅 5LDK
- 居室4室(8畳) 世話人室 リビング(共有スペース)、お風呂、トイレ、洗面所、キッチンは共有
- 立地環境 住宅地の一角にあり、すぐ隣には公園がある。歩いて5分の所にコンビニ、スーパーなどがあり、駅までも徒歩15分程度。
- サービス管理責任者 — 川崎 まさお
 - * 普段は別にある事務所にいて、他に2ヶ所のホームも見ている。
- 世話人 — 豊田 のぞみ 月~金 6:00~9:00、15:00~20:00
(1日 計8h勤務)
- 生活支援員 — 名古屋 ひかり 土・日 8:30~17:30(8h勤務)

模擬サービス担当者会議

- ・ファシリテーター①→共同生活援助事業所のサービス管理責任者役
- ・ファシリテーター②→就労継続支援B型事業所のサービス管理責任者役
- ・ファシリテーター③→本人役
- ・ファシリテーター④→父親役
- ・ファシリテーター⑤→相談支援専門員役

個別支援計画の作成

個別支援会議の実施

- ・個別面接等により事業所独自のアセスメントを行う。
- ・サービス等利用計画等を参考にする。

個別支援計画の原案を作成する

- ・利用者（申込者）心身の状況、他の障害福祉サービス等の利用状況を把握する。
- ・模擬サービス担当者会議を観察し、専門的な見地から意見を述べる様子を知る。

サービス担当者会議

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務 関係機関との連携

- 「サービス担当者会議（サービス等利用計画作成会議）」への参加
 - ・ 相談支援専門員と連携し、支援チームによるネットワーク構築に寄与
 - ・ 専門的な見地から意見を述べてアセスメントを深める
- ⇒「サービス等利用計画」の作成に協力するとともに、それを踏まえて「個別支援計画」を作成することで地域や外部につながる支援になっていく。



つまり、
顔の見える関係の“顔”になるということ！！

個別支援計画の作成

個別支援会議の実施

- ・個別面接等によりサービス管理責任者等としてのアセスメントを行う。
- ・サービス等利用計画等を参考にする。

個別支援計画の原案を作成する

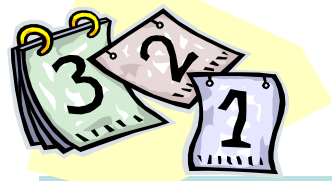
- ・利用者申込者心身の状況、他の障害福祉サービス等の利用状況を把握する。
- ・サービス担当者会議に参加し専門的な見地から意見を述べる。

サービス担当者会議

個別支援計画作成(演習)の流れ

- サービス担当者会議を経て、それぞれの事業所と契約するに至りました。
- 次に皆さんは、個別支援会議の実施、個別支援計画作成に向けて準備を行います。
- A・C・E・G・I・Kグループは「共同生活援助」、B・D・F・H・J・Lグループは「就労継続支援B型」事業所のサービス管理責任者として個別支援計画作成します。
- 個別支援計画作成にあたり「事例概要」及び「アセスメント表」、さらに「サービス担当者会議で確認した内容」を踏まえて「ニーズの整理」を行います。
- まずは事前課題で行ってきた「ニーズの整理表」を基に、グループで「ニーズの整理」を深めてください。
- それを基に個別支援計画の原案を作成してください。

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務 支援プロセスの管理



- 進行管理
 - 支援計画と時間軸はセットで提供
 - 時間軸の妥当性のチェックとタイムキーパー役
 - ゴール設定(長期目標と短期目標)の妥当性のチェック
- 個別支援会議の開催
- 支援課題の整理と大方針の設定
- 個別支援計画の作成(←最も重要！！)
 - サービス管理責任者には最終的な責任がある。署名と押印で責任の明確化を！



⇒ 個別支援の質を担保する役割

ニーズ整理のポイント

- ニーズ整理の目的
- ニーズ整理のポイント
 1. 利用者の意向に沿っているか
 2. 人生の一部としてとらえているか
 3. 全体像をとらえているか
 4. 多面的にとらえているか
 5. 複数の立場、多職種の見解が反映されているか
 6. 課題は検証可能か

07 ニーズの整理表

利用者名

さん

No	サービス等利用計画で整理された解決すべき課題（本人のニーズ）	初期状態の評価（利用者の状況・環境の状況）	支援者の気になること・推測できること（事例の強み・可能性も含む）	願いや希望を満たすための具体的な到達目標
	<p>サービス等利用計画は、サービス担当者会議にサービス管理責任者も参加して決めたものである。</p> <p>本人のニーズを全体的に把握したうえで、事業所で何ができるかを考える。その逆にならないように！</p>			

サービス等利用計画とニーズの整理表の関係

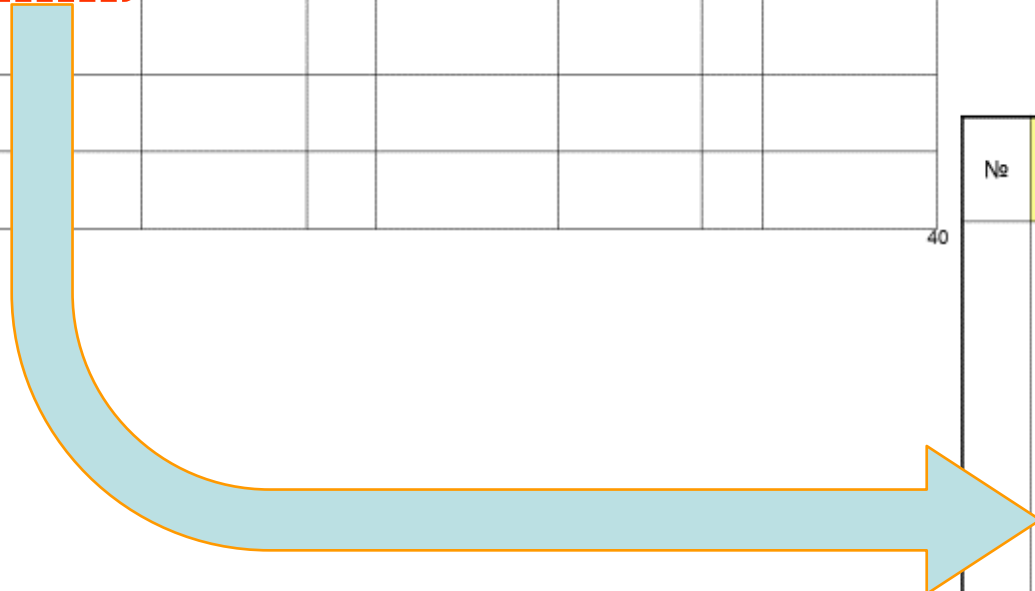
サービス等利用計画書(書式例)

利用者氏名		障害支援区分		相談支援事業者名			
障害福祉サービス受給者証番号				計画作成担当者			
地域相談支援受給者証番号							
計画書作成日		モニタリング期間(開始年月)		利用者同意署名欄			
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)							
総合的な援助の方針							
長期目標							
短期目標							
優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他留意事項
1							
2							
3							
4							

07 ニーズの整理表

グループ _____
利用者名 _____ さん

No	サービス等利用計画で整理された解決すべき課題(本人のニーズ)	初期状態の評価(利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること・推測できること(事例の強み・可能性)	願いや希望を満たすための具体的な到達目標



【1】グループワーク(ニーズの整理)

- ・司会、記録を決める。
- ・事前に作成した個人のニーズの整理表を基に、グループでニーズの整理を深めてください。

★A・C・E・G・I・Kのグループは

→「共同生活援助」事業者

★B・D・F・H・J・Lのグループは

→「就労継続支援B型」事業者

各グループで、ニーズの整理表から個別支援計画の「具体的到達目標」となるところを拾って、付箋に書き出しましょう。

グループワーク活性化のためのグラウンドルール

- ◆テーマに意識を集中して話し合しましょう。
- ◆グループメンバーの一人ひとりが、自身の考えを積極的に発言しましょう。
- ◆発言は短く、簡潔に。(一回の発言は1～2分)
- ◆他のメンバーの話に耳を傾けましょう。
- ◆他のメンバーの意見を否定せず、受け止めましょう。
- ◆アイデアの共通点を見つけながらつなぎ合わせましょう。

08 個別支援計画

利用者氏名: _____

作成年月日 _____ / _____ / _____

サービス等利用計画の総合的な方針

到達目標

長期目標(内容・期間等)

* 必要に応じてサービス利用終了時の目標を加える。

短期目標(内容・期間等)

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的 到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間 等)	担当者	優先 順位

上記の計画書に基づきサービスの説明を受け、内容に同意致しました。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

利用者氏名 _____ 印

サービス管理責任者氏名 _____ 印

ニーズ整理表と個別支援計画のつながり

07 ニーズの整理表

グループ _____

利用者名 _____ さん

No	サービス等利用計画で整理された解決すべき課題（本人のニーズ）	初期状態の評価（利用者の状況・環境の状況）	支援者の気になること・推測できること（事例の強み・可能性）	願いや希望を満たすための具体的な到達目標

サービス等利用計画書(書式例)

利用者氏名	障害支援区分	相談支援事業者名					
障害福祉サービス受給者証番号		計画作成担当者					
地域相談支援受給者証番号							
計画案作成日	モニタリング期間(開始年月)	利用者同意署名欄					
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	_____						
総合的な援助の方針	_____						
長期目標							
短期目標							
優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他 事項
1							
2							
3							

08 個別支援計画

利用者氏名: _____ 作成年月日 _____ / _____

サービス等利用計画の総合的な方針

到達目標
長期目標(内容・期間等)
短期目標(内容・期間等)

*必要に応じてサービス利用終了時の目標を加える。

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的到達目標	本人の役割	支援内容(内容・留意点等)	支援期間(頻度・時間・期間等)	担当者	優先順位

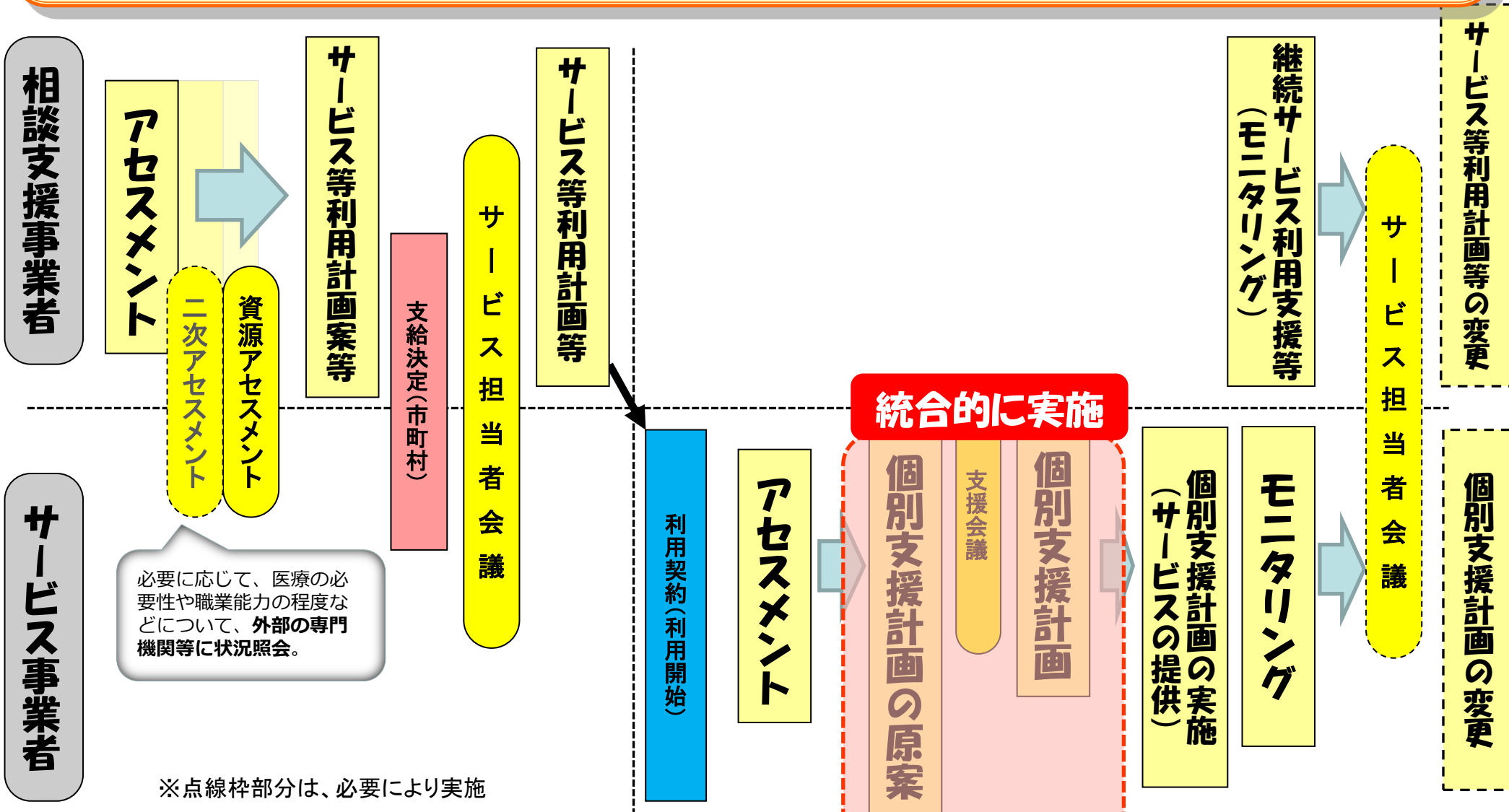
上記の計画書に基づきサービスの説明を聴き、内容に同意致しました。

平成 年 月 日 利用者氏名 _____ 印 サービス管理責任者氏名 _____ 印

【2】グループワーク (個別支援計画の作成)

- ・グループで個別支援計画を作成する。
- ・本人に分かりやすい言葉で記入する。

指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



個別支援計画作成のポイント

- サービス等利用計画に基づき個別支援計画を作る
- 本人のニーズがきちんと反映されているか？支援者側の押し付けになっていないか？
- 本人を中心とした計画を、本人と一緒に作り上げていく過程こそが大切
 - 自分の支援計画をラフスケッチする力をつける
 - 自分の人生に責任を持つという視点
- 本人に分かりやすい言葉で書く
- 支援内容を抽象的な言葉でごまかさない(安定した生活、楽しい暮らし、薬がちゃんと飲めるように・・・etc)
- 具体的な目標、期間を設定する。数量化出来るように努める。
 - 定期的に評価を行う
- 小さなステップを踏むような計画になっているか

タイムスケジュール 令和3年10月13日(水)午後

演習1 「個別支援計画の作成②」

90分

13:25

14:25 14:35

14:55

<p>【3】ロールプレイ (個別支援会議) (60分)</p>	<p>休憩 (10 分)</p>	<p>演習追加情報の 提示 (20分)</p>
---	-------------------------------	---------------------------------

- 個別支援会議を実施
 - ・演習で作成したプランを本人、家族に説明する。
- グループ内で話し合い。
- 個別支援計画案(共同生活援助、就労継続支援B型)資料を配布する。
(休憩中)

- 中間評価(モニタリング)資料を配布する。
- モニタリングによる新たなニーズを確認する。

ロールプレイについて(概要)

1. ロールプレイとは

- 現実にかかる場面を想定し、複数の人がそれぞれ役を演じ、疑似体験を通じてある事柄が実際に起こったときに適切に対応できるようにする学習方法の一つである。
- 学習者は、役割を演じなければならないが、演じ方はたいてい演者の自由である。
- 対人関係や態度・行動を通して行われる学習に用いられる。

2. ロールプレイのメリット

- 意志決定過程にみられるような物事のプロセスについて学ぶ可能性が高くなる。

3. ロールプレイの方法

1) 事前準備

- シナリオ: 準備の段階でシナリオを作成するか、役割だけを決めて自由に行うか、目的によって決定する。
- 時間: 決まっているわけではない
- オリエンテーション: 実施する前に学習者にその目的を十分に説明する。

2) 実施

- 実施中にロールプレイをビデオに録画しておけば、後で見直すことができる。

3) フィードバック

- ロールプレイ終了後、気づきや学びを話し合うことで、学習を深め、広げることが大切

ロールプレイ(ロールプレイング)の目的

日常生活の中で、人は必ず様々な役割を背負って暮らしていることを考えると、人生はまさにドラマと言える。その中で、常に同じような役割ばかりをこなしていると、新たな人間関係を作り出すことが大変難しくなる。

ロールプレイとは、参加者が自由な雰囲気の中で、あるテーマについて即興的に役割を演じ、協同して、役割行動の変容を図るもので、日常生活におけるそれぞれの役割を見直し、新しい状況に応じられるようになることを目的としている。

- (1) 日常生活における自分の役割を見直し、日常生活での課題を解決する手がかりを得る。
- (2) 参加者全員が、感情の解放をする。
- (3) 新しい、突発的な状況に応じることができる。

したがって、ロールプレイは日常生活のリハーサルとも言い換えることができる。参加者はうまく演ずる必要はない。大切なのは、いかに自分なりに自発性を発揮して演ずるか。

自発性が回復されれば、ロールプレイでの新鮮な役割体験は、新しい役割を日常生活に取り入れる原動力となる。

自発性とは、新しい状況においても、周囲と自分自身にとって、より適切な、望ましい対応ができるということ。一般に、人は、新しい状況に対して、他人の意見や自分の既存の体験をよりどころとして対応してしまいがちといえる。自発性は、そのような自分の外側から規制してしまうのではなく、自然に自分の中から自分を動かしていくこと。

自発性は、まず役割をとること(役割取得)から、自発的に個性的に演ずること(役割演技)、さらに、新しい役割を創造すること(役割創造)へと段階的に高まっていく。

【3】ロールプレイ(個別支援会議)

- ・グループ内で配役を決める。
- ・付箋に役名を記入し、名札に貼り付ける。
- ・席順を決める。
- ・演習で作成した「個別支援計画を本人や家族に説明し、同意を得る場面」であることを全員で確認する。

個別支援会議 配役 (A・C・E・G・I・Kグループ「共同生活援助」事業者)

役名	氏名	役柄	配役(氏名)
本人	水道橋久		
父親	水道橋つばさ		
相談支援専門員	六本木はやと		
共同生活援助 サービス管理責任者	川崎まさお		
世話人	豊田のぞみ		
副世話人	小玉みずほ	※7人グループの場合は不要	
生活支援員	名古屋ひかり		
観察者		※発表者	

個別支援会議 配役 (B・D・F・H・J・Lグループ「就労継続支援B型」事業者)

役名	氏名	役柄	配役(氏名)
本人	水道橋久		
父親	水道橋つばさ		
相談支援専門員	六本木はやと		
就労継続支援B型サービス管理責任者	本田一郎		
生活支援員	鈴木さくら		
就労支援員	熊野ゆうこ	※7人グループの場合は不要	
職業指導員	松阪てるお		
観察者		※発表者	

利用者・家族への説明のポイント

- 本人に分かりやすい言葉で説明する。
- 総合的な支援の方針を確認することで、サービス等利用計画に基づき作成したことを確認する。
- 本人のニーズがきちんと反映されていることを、どのような過程を経て、何を根拠として支援内容を組み立てたかについて説明する。
- 目標を分かりやすく説明することで、何のための支援かを明確化する。
- 支援内容を抽象的な言葉ではなく、具体的な場面などを想定して説明する。

振り返り(フィードバック)

役割を演じて体験したこと考えたことを全員が言葉にして分かち合う。

...例えば

- ○○役として、自分自身が感じたこと...
 - ○○役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったところ...
 - ○○役として、△△役の言動に抱いた感情.....等
- 演技であっても、思ったより内面が動かされることを経験する。その内面のざわつき、揺れ、感情的な反応を表現し共有することでロールプレイによる気付きは深くなる。その気付きが今後の会議の機能を上げていく。
- 分かち合うことで、役から離れられる(終わることが出来る)効果もある。

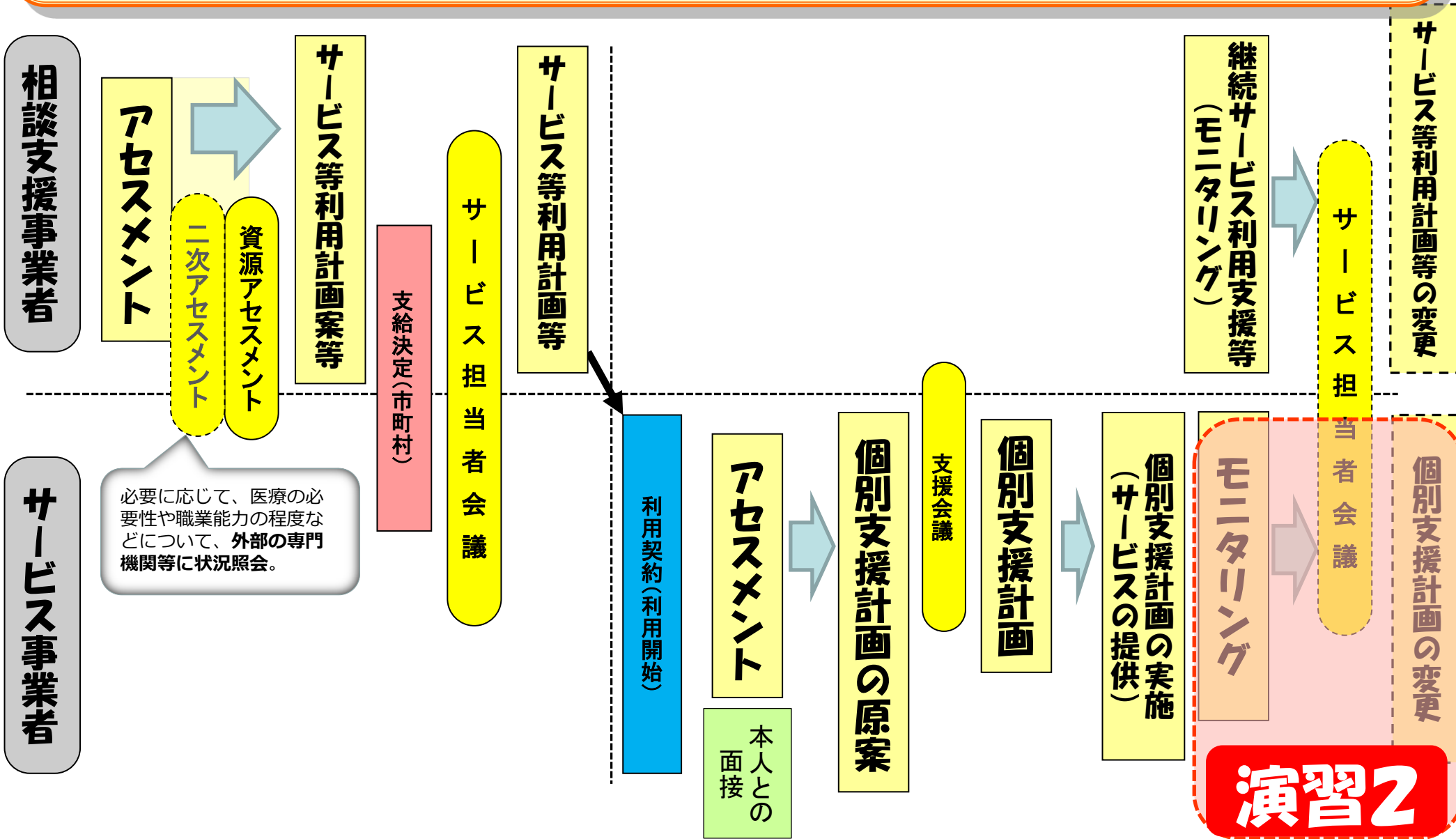
【演習2】 個別支援計画の実施状況の把握 (モニタリング)および記録方法

演習の内容と目的

サービス提供プロセスの管理に関する演習(7.5時間)

1. 個別支援計画の作成(演習)	モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。	270分
2. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)および記録方法(演習)	モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。	180分

指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



事例の確認と追加情報の提示 (モニタリングによる新たなニーズ)

中間評価の資料を配布します。

※個別支援計画の中間評価

タイムスケジュール 令和3年10月13日(水)午後

演習2「個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)及び記録方法」

180分

14:55

16:05

16:15

17:05

17:15

17:55

18:05

【4】モニタリング (サービス担当者会議) (70分)	休憩 (10 分)	【5】個別支援計画 修正案の作成 (50分)	休憩 (10 分)	全体発表と 意見交換 (40分)	研修 の 総 括 (10分)
---------------------------------------	---------------------	----------------------------------	---------------------	----------------------------	--------------------------------

○モニタリング(演習の流れ)
参照

○グループ内で見直しを検討する。
・修正箇所が分かるように赤マジックを使用する。
・サービス担当者会議を基に修正を加える。

※休憩はグループごとに行う。

○数グループより発表。
・修正箇所を中心に発表する。
・本人に説明するような形で説明する。
○講師及びファシリテーターからのコメント
○振り返り
・分かりやすい言葉遣いできたか。
・本人・家族の立場で個別支援計画を作成できたか。
・サービス管理責任者と相談支援専門員の違いがイメージできたか。
・連携についてイメージできたか。

個別支援計画の中間評価

						利用者名	
到達目標	達成状況の評価			現状・達成されない原因の分析等		今後の対応(支援内容・方法の変更等)	優先順位
1	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成			
2	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成			
3	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成			
4	達成	ほぼ達成	一部達成	未達成			

モニタリング(演習)の流れ

(1)追加情報(モニタリング情報)

共同生活援助事業者、就労継続支援B型事業者のそれぞれが作成した中間評価をもとにサービス担当者会議に臨む。

(2)共同生活援助、就労の合同グループをつくる。偶数と奇数グループで合同グループをつくる。

ファシリテーターもグループに同行する。

(3)簡単な自己紹介

(4)ロールプレイ

○演習のガイダンス・演習の目的、進め方について説明

○模擬サービス担当者会議の設定

・設定は、サービス管理責任者から個別支援計画の中間評価に関する報告を受けた相談支援専門員が、各サービスの支援状況の共有と支援内容の調整の必要性があると考え、サービス担当者会議を開催することとなった。

○模擬サービス担当者会議

・グループごとに場面を確認し、模擬支援会議の役割を分担する。

・各配役に設定されている意見や考え方について講師より説明を受ける。

・ロールプレイは共同生活援助・就労継続支援B型の2グループで1組となり、実施と観察を交代で行う。

・1回目は共同生活援助を実施グループとして、就労が観察者となる。ただし、就労から就労のサビ管と支援員役として実施グループに参加する。

・名札をつくる。

・ロールプレイ開始。

・ロールプレイが終了した後のフィードバック

*サービス管理責任者の役割や機能、本人の気持ちなどについて、サービス管理責任者役、本人役、観察者などから意見や感想を述べてもらいグループとしてフィードバックする。

・2回目は就労を実施グループとして、共同生活援助が観察者となる。ただし、共同生活援助から共同生活援助のサビ管と世話人役として実施グループに参加する。

・ロールプレイが終了した後のフィードバック

【4】ロールプレイ(サービス担当者会議②)

- ・個別支援会議で決めた配役で行う。
- ・サービス担当者会議を実施する。

<1回目>サービス担当者会議①

- ・共同生活援助(グループホーム)グループメンバーを中心に実施。
- ・就労継続支援B型のサービス管理責任者、生活支援員は対になる就労継続支援B型グループから参加する。

<2回目>サービス担当者会議②

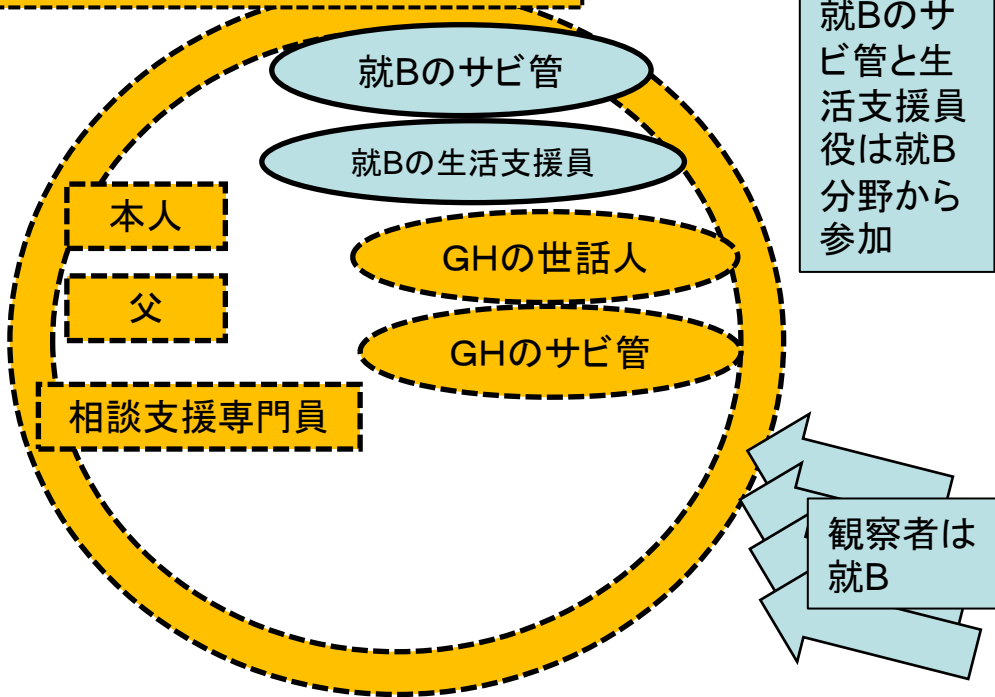
- ・就労継続支援B型グループメンバーを中心に実施。
- ・共同生活援助(グループホーム)のサービス管理責任者、世話人は対になる共同生活援助グループから参加する。

①、②とも、配役から外れた受講者は周囲で観察者となる。

モニタリングに係るサービス担当者会議(演習)の実施方法

1回目

実施グループは共同生活援助



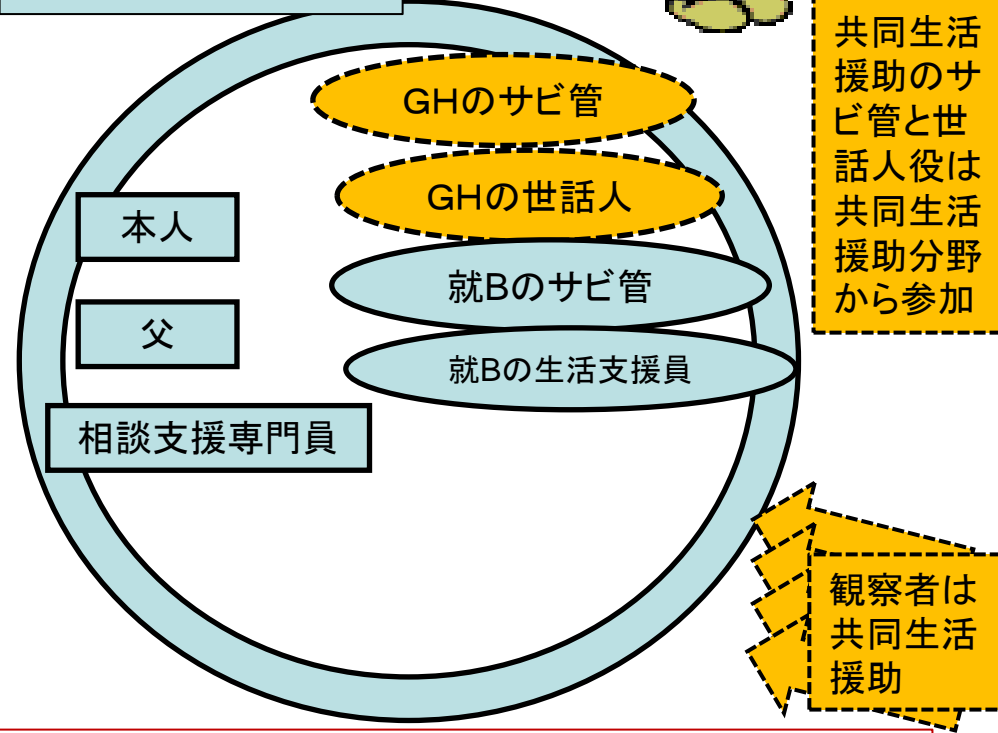
共同生活援助を実施グループとして、就Bが観察者となる。ただし、就Bからサビ管役と支援員役が実施グループに参加する。

金魚鉢分析の要領だよ。



2回目

実施グループは就B



就Bを実施グループとして、共同生活援助が観察者となる。ただし、共同生活援助のサビ管と世話人役が実施グループに参加する。

サービス担当者会議に参加する際のポイント

1. サービス利用に至る経過を、相談支援専門員の説明により確認する。
2. 本人の意向について、本人の言葉により確認する。
3. 家族の意向について、家族の言葉により確認する。
4. 相談支援専門員によるアセスメント内容やニーズ整理について不明な点を確認したり、意見を述べる。
5. サービス等利用計画案に示されている支援の方向性や必要な支援内容の全体像について確認する。
6. 自らの事業所に求められていることについて確認するとともに、対応可能なことと、現状では難しいことなどについて意見を述べる。
7. 今後のスケジュールについて確認する。

※準備をした質問や意見を必ずしも実行する必要はありません。本人や家族の状況、会議の進行状況に応じて判断が必要です。

振り返り(フィードバック)

役割を演じて体験したこと考えたことを全員が言葉にして分かち合う。

...例えば

- ○○役として、自分自身が感じたこと...
 - ○○役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったところ...
 - ○○役として、△△役の言動に抱いた感情.....等
- 演技であっても、思ったより内面が動かされることを経験する。その内面のざわつき、揺れ、感情的な反応を表現し共有することでロールプレイによる気付きは深くなる。その気付きが今後の会議の機能を上げていく。
- 分かち合うことで、役から離れられる(終わることが出来る)効果もある。

【5】グループワーク (個別支援計画修正案の作成)

- ・司会、記録、発表を決める。
- ・個別支援計画の中間評価やサービス担当者会議の結果から、グループ内で個別支援計画の見直しを検討する。
- ・修正箇所が分かるように、赤マジックを使用する。
- ・数グループからの発表。

個別支援計画修正案の作成 「モニタリングによる新たなニーズ」

サービス担当者会議の結果、下記の内容で個別支援計画の修正案を作成することになりました。

共同生活援助グループ: 久さんは、「今はスマイル(就B)からピアハウス(GH)に帰ってきて、疲れて何もできない日もあるけれど、早く就職活動をして仕事をしたい。体力と自信をつけたいのでスマイルでもいいけど、もっと就職につながるような活動もしていきたい。」と希望されていることがわかりました。

就労継続支援B型グループ: 久さんは「今は、就労よりも一人暮らしの力をつけたい。もちろん、仕事の力も徐々につけていきたい。」と希望されていることがわかりました。

研修の総括

- サービス管理責任者と相談支援専門員の違いが理解できましたか？
- 連携についてイメージできましたか？

皆さんお疲れさまでした。

研鑽を積み、実践研修でお会いしましょう！